

2019 年度事業計画(案)

施設・事業所名 小樽市さくら学園

実施する福祉サービスなど

福祉サービス事業	利用定員 A	一日平均の 利用者数 B	年間の事業 実施予定日 C	実利用目標 (年間述人 数) D	利用率目標 (D/A×C) E
児童発達支援センター (障害児通所支援)	20名	17名	243日	4131名	85%
〃 (保育所等訪問支援)	名	0.8名	180日	180名	%
障害児相談支援	上限60名	名	245日	300名	

職員体制(4月1日)

職 種	員 数	区 分				常勤換 算後の 職員数	摘 要
		常 勤		非常勤			
		専従	兼任	専従	兼任		
管理者	1		1			0.8	
サービス管理責任者	1		1			1.0	
児童支援員	1	1				1	
保育士	5	4		1		4.7	
保育補助員	3			3		2.1	
訪問支援員	2	1	1			1.2	
相談支援専門員	1	1			1	1	
事務員等	1			1		0.7	
その他	4			4		2.8	その他
合 計							

重点推進目標(3点)

療育支援(児童発達支援)の機能を強化充実させる
1 「障害児」ではなく、一人の子ども(人間)としての存在であるということを基本に、一人一人の子どもがいる場所(家庭・保育所その他の地域)を中心に、その状況にあった質の高い支援の提供に努める。
2 一人一人の子どもが見通しを持って意欲的・自立的に期待感を持って「遊び」や「活動」や「生活」に取り組む療育とそれをサポートする構造化(物理的構造化・視覚的構造化)をベースに、個々の特性や個性に応じた柔軟な支援を行う。
療育支援及の充実のために職員の資質の向上を図る
1 児童発達支援センターの機能として求められる「障がい種別」を問わず、地域に暮らす様々な障がいや困り感のある子どもとその家族に適切な支援が提供できるよう、多様な障がいについての学習・研鑽を重ね、療育及び支援技術の向上に努める。
2 障害当事者や家族の心理等、学習や実際の支援、親の会などを通じて学び、子どもや家族の気持ちに共感できる支援者の育成を図る。
3 障害児とその家族を思いやり大切にするように、職員同士も互いが尊敬し、高め会える人間関係と職場環境を整備していく

#### 地域支援機能の強化

- 1 地域の中核的な役割を期待されている児童発達支援センターとしての機能を向上させるため、障害児相談支援事業・保育所等訪問支援事業の充実を図る。
- 2 小樽市こども発達支援センターとの連携強化と役割分担などの検討や、小樽市障がい児・者支援協議会への参加を通じて、小樽市の児童発達支援のネットワークを強化する一翼を担う。

平成32年度小樽市との指定管理（さくら学園の業務受託契約の更新）に向けた体制の検討と小樽市との協議

- 1 指定管理の契約期間を5年から3年に短縮し、社会情勢の変化に合わせた予算の見直し等に柔軟に対応できる体制を作る。
- 2 通所の定員見直し（定員増）とそれにとまなう職員の増配、障害児相談支援事業の業務の拡大に対応するための相談支援専門員の増配に向けて小樽市との協議を進め、職員体制の充実を図る。

#### 施設整備計画

○無し

【予定額】

千円

#### 設備整備計画(車輛更新含む)

○平成32年度定数増と現設備の老朽化に対応するための児童用のテーブル・椅子の更新

【予定額】

1,500 千円

#### 支援計画

##### （運営の基本方針）

- ① 児童発達支援センター小樽市さくら学園の運営にあたっては、児童福祉法、障害者総合支援法、小樽市さくら学園条例その他の関係法令、小樽市さくら学園業務協定書の各条項を遵守します。
- ② 当法人の基本理念にあるノーマライゼーション社会の実現を目指し、児童福祉の向上に努めます。
- ③ 児童発達支援センターの機能として求められる、「障害種別を問わず、地域に暮らす様々な障がいや困り感のある子どもとその家族に適切な支援が提供できるよう、多様な障がいについての学習・研鑽を重ね、療育及び支援技術の向上に努めていきます。
- ④ 他の関係機関との連携を強化しながら、地域の障がい児や様々な困り感を抱える子どもとその家庭を支えるために、小樽市における中核的な役割を果たせるよう機能の強化に努めます。
- ⑤ 児童福祉施設である小樽市さくら学園の運営により幼児期から成人期までの一貫・継続した障がい児・者福祉に取り組み、利用する一人一人の地域住民としての選択と決定に基づく人生設計を支援し、生涯に渡る安心感と安定感のある豊かな生活を提供するために、法人の機能を有機的に且つ発展的に活用した事業展開を目指します。
- ⑥ さくら学園の事業の中心となる週5日の通園による「児童発達支援事業」（障害児通所支援）の充実を図ります。

同時に、地域の保育所・幼稚園等に通う障害児や困り感のある子どもについての専門的な視点からの指導・助言等を行う「保育所等訪問支援事業」（障害児通所支援）と、障害や困り感を持つお子さんの相談全般から、障害児通所支援利用のための障害児支援利用計画案及び計画の作成他を担う「障害児相談支援事業」の2つの事業（地域支援部門）の充実を図り、地域における児童発達支援及び子どもと家族を中心とした家族支援・地域支援の機能を高めていきます。

（療育及び支援の方針）

- ① 「障害児」ではなく、一人の子ども（人間）としての存在であるということを基本に、一人一人の子どもがいる場所（家庭・保育所その他の地域）を中心に、その状況にあった質の高い支援（通園による療育支援・児童相談支援・保育所等訪問支援）の提供に努めます。
- ② 一人一人の子どもが見通しを持って意欲的・自立的に期待感を持って「遊び」や「活動」や「生活」に取り組む療育とそれをサポートする構造化（物理的構造化・視覚的構造化）に努めます。
- ③ 障害のある子を産み育てる悲しみや苦しみは若い保護者にとって生やさしいものではなく、若い保護者の丁寧で温かな心のケアに努めます。
- ④ 子どもの持っている「障がい」は、一生涯の発達障害であり、親子関係も一生涯ですので保護者の成長を支援します。
- ⑤ 子どもを真ん中に、家庭と園との信頼・協力・補完関係を大切に、子どもの療育を通して家族支援に努めます。
- ⑥ 小樽圏域や後志圏域の関係機関と連携し、子どもの療育と保護者の支援に努めます。

＜児童発達支援事業＞

療育・支援にあたっては保護者と一緒に、子ども一人一人の障害特性や発達段階や個性に合わせた「児童発達支援計画」を作成し、保護者と連携して一緒に取り組みます。

- ① 母子通園クラスと単身通園２クラスを編成します。
- ② 母子通園クラスは、おおむね３歳以下の子どもを対象に、母子一緒に療育を受けることで、母親が子育ての手応えをつかみ、安心して具体的に子育てが出来るように支援します。
- ③ 母子通園クラスの療育時間は、9:30～13:30とします。  
単身通園クラスは、おおむね４歳以上の子どもを対象に、子ども一人で通園し個別・集団療育を通して生活能力やコミュニケーション能力、社会性、運動発達を育て、次のステップ(保育園・幼稚園・学校)への移行を促します。
- ④ 単身通園の療育時間は、原則 9:30～14:30 とします。
- ⑤ その他、保護者との利用契約に基づき、所定のサービスを提供します。

通園療育支援の1日の流れ

8：00～8：15	朝の打合せ（園児の出欠確認、行事や各クラス活動内容の確認・連絡事項伝達など		
8：20～9：45 （1便・2便あり）	送迎用車両（2台）出発 添乗職員は基本1名であるが、園児の状態等により対応する 残りの職員は療育準備や記録などにあたる		
	1便で園に着いた子達から持ち物の整理、着替え、排泄など 自由遊びをしながら2便の子たちを待つ（ホールで対応）		
	さくらんぼ（母子）	ちゅうりっぷ（単身）	ひまわり（単身）
10：00～	朝の会	朝の会	朝の会
	水分補給	水分補給	水分補給
10：30～	園内外での遊び（活動内容により、クラス別、合同など）		
11：20～	給食準備 手洗い、排泄	給食準備 手洗い、排泄	給食準備 手洗い、排泄
11：30	給食 はみがき 自由遊び 後片づけ	給食 はみがき	給食 はみがき
13：00			
13：00			
13：00	着替え、帰りの準備 帰りの会	自由あそび  （職員は保護者への連絡ノート記入） おやつ 自由あそびなど	
13：30	降園		
	送迎車1 添乗 送迎車2 添乗 片づけ		
14：30		着替え、帰りの準備 帰りの会 降園	
		送迎車1 添乗 送迎車2 添乗 後片づけ	
15：30	記録、打合せなど		
16：30 ～17：00	1日の各クラスの振り返り、連絡事項		

※ 預かり対応      母子クラス      13:30~17:00  
                         単身クラス      14:30~17:00

<地域支援部門>

1 児童相談支援事業（障害児相談支援事業）

事業の方針

- ① 心身の発達において特別な配慮が必要と思われる児童とその保護者等に対し、児童の成長に関する相談を通し、適切な対応や必要な支援につなげることで、心配や不安の軽減を図り、児童と家族等の良好な関係性や子育てへの自信等を促します。
- ② お子さん一人一人のその人らしい生活と、その質の向上にむけてお子さんの思いを代弁し、成長しようとする力を支えるよう、相談を通して支援を行います。
- ③ 専門職としての倫理観を持ち、お子さんを取り巻く社会環境の改善に貢献します。

## 事業内容

- ① 障害や困り感を持つお子さんの生活相談（食事・排泄・コミュニケーション・遊び等）
- ② 障害児通所支援利用のための障害児支援利用計画案及び計画の作成
- ③ 福祉サービス利用開始後のモニタリング
  - ＊福祉サービス・・・児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業・日中一時支援事業他の利用に関する相談
- ④ その他福祉サービス利用に関する相談（児童の相談だけでなく、保護者自身の悩み、家族支援等も含めた相談体制を構築します）

## 2 保育所等訪問支援事業

### 事業の方針

- ① 心身の発達において特別な配慮が必要な児童やその保護者等が、集団生活になれることができ、また自発的な生活を送ることができるよう支援します。
- ② 障害や困り感を持つお子さん達の集団における生活で、本人がもつ力を引き出せるよう、保護者・施設職員と共にお子さんの状況を確認しながら支援します。
- ③ 幼児期、学童期に身につけておくべき生活力、社会性を、集団の中で獲得できるようお手伝いし、将来に亘り可能性豊かな生活の礎となるような支援をめざします。

### 事業の内容

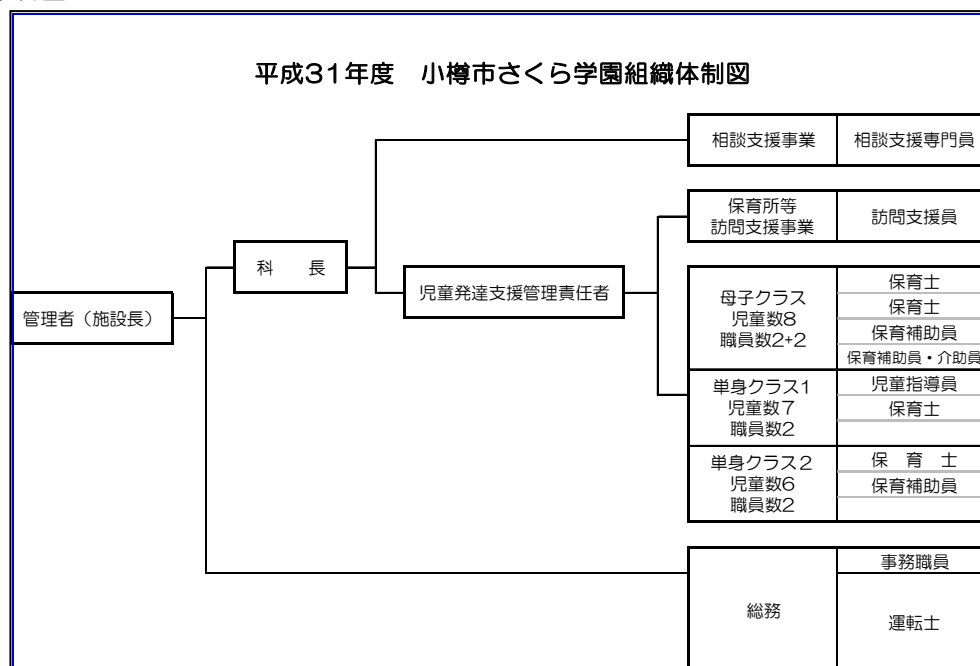
集団生活におけるお子さんの様子について、保護者等からの要望に応じて訪問支援員が要望された施設へ行き、対象児童の集団生活での状況を確認し、担任の先生等も交えて指導・助言等を行い、集団生活に適應できるよう支援します。

#### ① 事業の流れ

障害児通所支援受給者証（保育所等訪問支援）の支給決定を受けた児童の保護者等からの要望に応じて、保護者等及び訪問先の施設との調整ができた後、訪問支援員が対象施設へ訪問します。

対象施設では、対象児童の集団での状況、友達との関係、保護者等の気になること、施設での日常の様子等を観察し、施設の職員に対して児童が集団生活に適應するための相談・専門的な支援を行います。集団生活内での児童の状況、友達の交流の状況等を確認し、保護者、施設内での児童の担任等と話をし、今後の療育内容、指導方法等について話し合いを行います。

## 支援体制図



主な行事実施計画

4月5日	始業式	8月9日	EIL沼遠足	12月7日 21日	お餅つき会 クリスマス会
5月31日	水族館遠足	9月22日	運動会	1月	
6月21日	動物園遠足	10月4日	秋の遠足	2月3日	節分
7月12日	豊平川ウォーターガ ーデン遠足	11月10日	お祭り会	3月13日 22・26日	卒園を祝う会 卒園・終了式

これらの他に内科健診、歯科検診を実施します。

会議・委員会等の開催計画

会議・委員会	実施日	摘 要
職員会議	毎月第2・第4木曜日	全職員参加対象
責任者会議	毎月第2・第4木曜日	施設長・科長・児童発達支援管理責任者、各責任者
給食会議	毎月第4木曜日職員会議	全職員
衛生会議	毎月第4木曜日職員会議	全職員
リスクマネジメント会議	毎月第4木曜日職員会議	全職員
ケース会議	毎月第2・第4木曜日職員会議時	全職員
児童発達支援計画作成会議	随時	職員会議と同時開催
防災会議	随時	施設長、科長、児童発達支援管理責任者

研修計画(施設・事業所内研修)

開催時期	対象職員	研修内容
4月	全職員	家族と私たち職員の信頼・協力関係について
5月	新任職員	法人全体の新任職員研修
7月	経験年数6年目の職員	法人内6年目職員研修～中堅職員としての資質の向上を目指し、先進的な取り組みの視察研修等の実施
10月	経験年数3年目の職員	法人内3年目職員研修～新任職員研修チャレンジシートを用いての振り返り、先輩職員からの学び
毎月1回	全職員	療育の羅針盤（さくら学園療育の指針となるもの）の読み合わせと学習
4～9月	保育士（1名）	法人内自閉症研究会
10～3月	保育士（1名）	法人内自閉症研究会
11月	法人職員研修	事例発表（検討）と権利擁護について
随時	全職員	管理者による全職員のコミュニケーション面談（年2回）
随時	児童指導員・保育士	児童の発達検査（PEP）の学習と実践研修
随時	全職員	派遣研修の伝達研修の実施
月2回	全職員	ケース会議による通園児童の情報交換と療育支援についての検討など

# 研修計画(外部研修)

月日	研修名	主催	開催地	出席者
4 月	平成 30 年度後志知的障がい福祉協会定期総会及び施設長研修	後志知的障がい福祉協会	小樽市	櫻井
5 月	平成 30 年度全道施設長セミナー	北海道の障がい福祉協会	札幌市	櫻井
5～9 月	法人内自閉症研究会 (5 回実施)	社会福祉法人 後志報恩会	法人	保育士
未定	普通救命法研修	小樽市消防署	小樽	11 名
9 月	児童発達支援センターつくしんぼ学級職員交換研修	社会福祉法人 侑愛会	北斗市	伊藤
随時	ふくしいどばたかいぎ	小樽市障がい児・者支援協議会	小樽	臼屋
未定	虐待防止研修会	北海道社会福祉士会	札幌市	保育士
未定	児童発達支援部会研修会	北海道知的障がい福祉協会発達支援部会	札幌市	指導員
10～3 月	法人内自閉症研究会 (5 回実施)	社会福祉法人 後志報恩会	法人	保育士
10 月頃	言語障がい児関係職員研修	北海道社会福祉協議会	札幌市	保育士
未定	相談支援関係研修		未定	臼屋
未定	全道知的障がい関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	指導員・保育士
未定	平成 30 年度児童発達支援基礎研修	北海道通園センター連絡協議会	北広島	保育士
未定	虐待防止関係研修	たねっとフォーラム開催事務局		保育士
未定	法人新任職員フォローアップ研修	後志報恩会	未定	新任職員
年 4 回程度	小樽市発達支援関係職員学習会	小樽市発達支援関係職員学習会	小樽	指導員・保育士他

## 権利擁護の推進方針

<p>安心と笑顔支援マニュアルに基づき、虐待防止への継続した取組及び権利擁護の推進を図る。</p> <p>主な取組内容</p> <p>年齢にふさわしい呼称（くん・ちゃん・さんづけ）の徹底への取組継続実施。</p> <p>毎月定例での虐待防止委員会の開催。</p> <p>内部研修会の開催。</p> <p>虐待防止チェックリストの実施。</p> <p>外部研修会への参加等</p>
---

## コミュニケーション面談実施計画

職員一人一人の思いをしっかり受け止め、運営に活かすと共に、風通しの良い快適な職場環境を  
 と等を目指して、年間2回の全職員へのコミュニケーション面談の実施を行う

実施時期 1回目：5～6月

2回目：11～12月

対 象 全職員

実施方法 1回30分～1時間程度で設定する

## 職員健康診断実施計画

年2回全職員対象実施予定

## 施設・事業所の構造

### (1) 施設構造・面積

建 物	構 造	鉄筋コンクリート造陸屋根平屋建
	延べ面積	649.97㎡
敷地面積	2,886㎡	

### (2) 主な設備

区分	部屋名	面積 (㎡)	区分	部屋名	面積 (㎡)
管 理 部 門	職員室	51.88	サ ー ビ ス 部 門	指導室 (1)	38.50
	職員トイレ	14.88		指導室 (2)	30.00
	更衣室	7.90		指導室 (3)	30.00
	休憩室	5.5		母子訓練室	65.00
	調理室	20.25		母子訓練室トイレ	16.25
	合 計	100.41		体験交流スペース	22.00
そ の 他	ボイラー室	20.50		相談室	18.75
	食品庫	1.30		観察室	10.00
	教具室 (1)	20.00		医務静養室	18.75
	教具室 (2)	4.05		遊戯室	100.00
	風除室	8.00		幼児トイレ	10.00
	物置	1.55		シャワー室	7.00
	廊下ほか	127.91			
	合 計	183.31		合 計	366.25